

第22回症例検討会

case42

2022年 11月 14日

「60代男性 毎週通院していた患者から脳血栓が見つかった症例」

なぜ、このような症例を報告するか

鍼灸院での未病や養生の限界はどこにあるのか。

鍼灸院には**健康保持を期待**して
長く定期的に通う患者さんが少なくないが
患者さんの想いと実際にギャップは無いだろうか。

今症例は、健康保持を期待して数年通っている患者さんから
脳血栓がみつかり緊急入院となった症例である。
はたして鍼灸はこの患者さんの**未病・養生に貢献していたのか。**
患者さんが望んでいた状態に貢献していたのか。
症例を通じてみなさんと考えたい。

60代 男性

主訴：健康保持

医師の診断名：Ⅱ型糖尿病

既往症：r肩関節周囲炎(x-3年)、l肩関節周囲炎(x-1年)

医療機関：総合病院(糖尿病 人間ドック)

眼科(ICL 眼内コンタクトレンズ)

内服薬：インスリン自己注射

持続自己血糖測定器(リブレ)

生活歴：【アルコール】お付き合い程度

【喫煙】現在なし

【食事】ご職業柄不安定(外食多い)

アレルギー：スギ・ヒノキ

現病歴：

X-3年 r 肩の運動制限と夜間痛を訴えて来院。
その後、週1回の施術で半年ほどで消失。
健康保持・息災を期待して
週に一度、**定期的に通院**されていた。

X年10月 奥様から電話あり。
めまいからかかりつけ医を受診したところ
脳に血栓が見つかり(奥様の話では目の奥)
大学病院に**緊急入院**している、との事。

客観的情報

X年9月

脈拍：65拍/分

血圧：112/74 mmHg

検査：A1c6.5(x年6月)

頭部MRI 特に異常なし(x年7月 人間ドック)

東洋医学的情報

寒熱：どちらかというとき暑がり

汗：汗っかき 食事：外食多い 二便：下痢がち

睡眠：6時間、たまに浅眠

脈診：やや浮、やや数、やや滑、実にして緊

腹診：中脘にジユウを触る事が多い

治療

取穴：背部兪穴 頭 手足要穴に置鍼と点灸

標治として肩などに撚鍼や雀啄

刺鍼法：補 浅刺～深刺 置鍼 撚鍼 雀啄

得気：無～有

深さ：2～4mm 1～2cm

通電：無

頻度：1/w

経過

X年9月下旬 鍼灸院での最後の施術。
半年前から单身生活でさらに外食が増え
食事面で心配と相談を受けていた。

定期的(毎月)に糖尿病内科にかかり
毎年(今年は7月に)人間ドックも行っていた。
鍼灸院での血圧測定でも大きな変動はなかった。
脈診では9月に入り六部定位で脾虚が強く出ており
本人に伺うと9月初旬のワクチン4回目接種以降
お腹の具合を崩しているとの事であった。

経過

X年10月初旬 奥様から電話。
めまいからかかりつけ医を受診し
脳に血栓が見つかった、との事。
現在、大学病院に緊急入院中なので
予約キャンセルお願いいたします、との内容だった。

その後、ご本人からも電話があり
リハビリ入院を経て回復したら
また鍼灸院に伺います、とのお話を頂く。
詳しい経過は伺えなかったが
特に後遺症もないとのことだった。

考察

患者さんからは、鍼灸に健康保持・息災を期待される。

また鍼灸側の説明として

未病や養生について患者さんに話す機会が多い。

とはいっても、実際には(わたしだけかもしれないが)

長く通院している患者さんが**癌を発症**したり

脳血管障害や**循環器の問題**を発症するケースがある。

腕がない、と言われればそれまでだが

このような時、患者さん側から鍼灸にかかっていたから軽くて

済みましたなどのお話を頂くこともある。

患者さん側が気をつかっている事も想定され、実際はわからない。

統合医療的な未病の実践には

地域での医療連携が必須だと考える。